

## 7 - 6 有馬～高槻～六甲断層帯近傍における地殻活動観測結果(2001年11月～2002年4月)

### Observation of the Tectonic Activities in the Arima-Takatsuki-Rokko Fault Zone (November, 2001-April, 2002)

産業技術総合研究所  
Geological Survey of Japan/AIST

産業技術総合研究所が設置している有馬～高槻～六甲断層帯近傍における観測点(池田・宝塚・平林・育波:第1図)の歪計等の観測結果について2001年11月1日から2002年4月30日までのデータを報告する。

#### 1. データの概要

##### 1) 平林(第2図)

水位:(野島断層破碎帯内,浸透性の部分) 気圧と逆相関,降雨の影響あり。

歪:設置していない。

##### 2) 宝塚(第3図)

水位:(有馬層群内) 気圧と逆相関,降雨の影響あり。湧水のため密閉。

歪:(有馬層群内)長期トレンド 3成分とも縮み。

##### 3)池田(第4図)

水位:(大阪層群内) 気圧と逆相関,降雨の影響あり。

歪:(有馬層群内)長期トレンド 1成分縮み,1成分伸び,1成分ほぼ平衡。

2001年8月2日,落雷のため以後ch.2欠測。

##### 4) 育波(第5図)

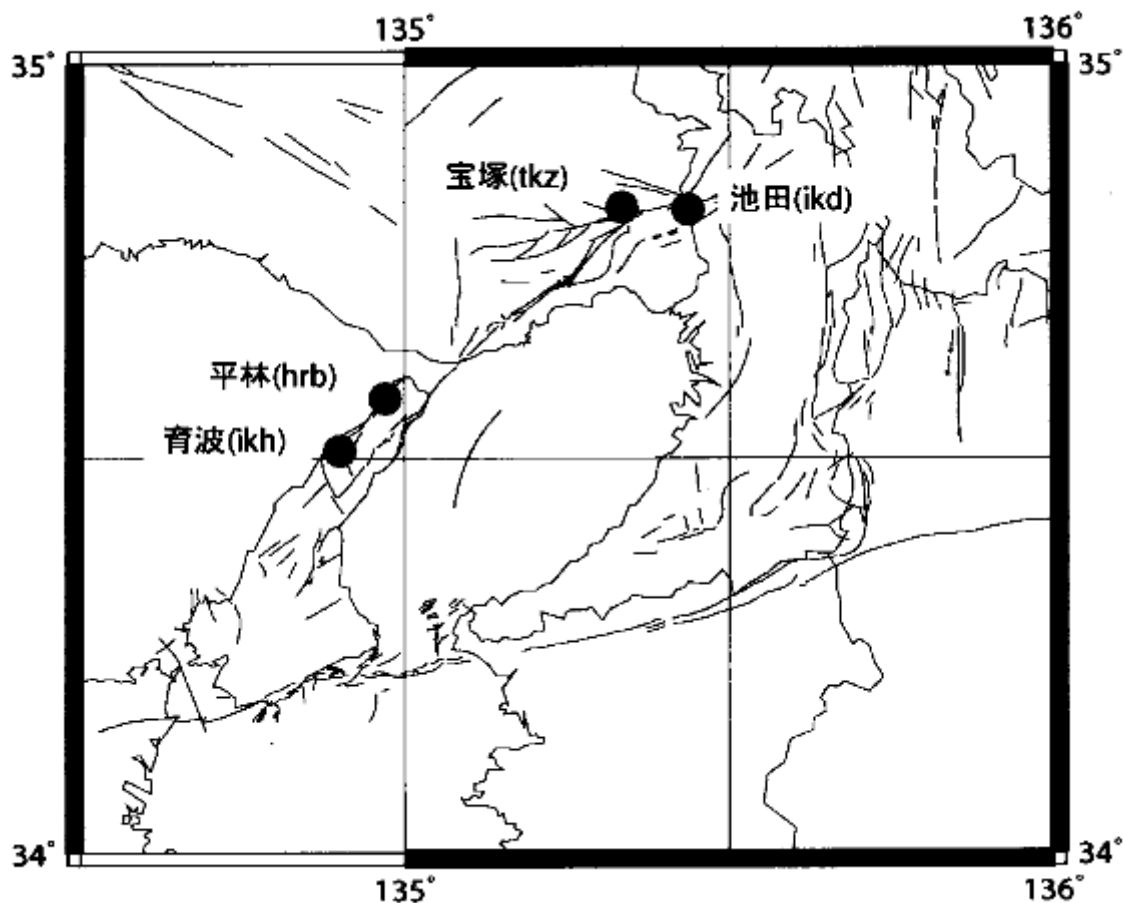
水位:(花崗岩内) 気圧と逆相関,降雨の影響少ない。2001年12月4日から水位50cm程度の上昇があり(前回予知連報告),2002年4月21日より50cm程度水位降下。

歪:(花崗岩内)長期トレンド 3成分ともほぼ平衡。2001年12月4日から水位の上昇と同期して,歪3成分の縮みがあり(前回予知連報告),2002年4月21日からの水位降下に同期して,歪3成分の伸びがあった。

##### 5) 育波の異常変動の特徴(第6図)

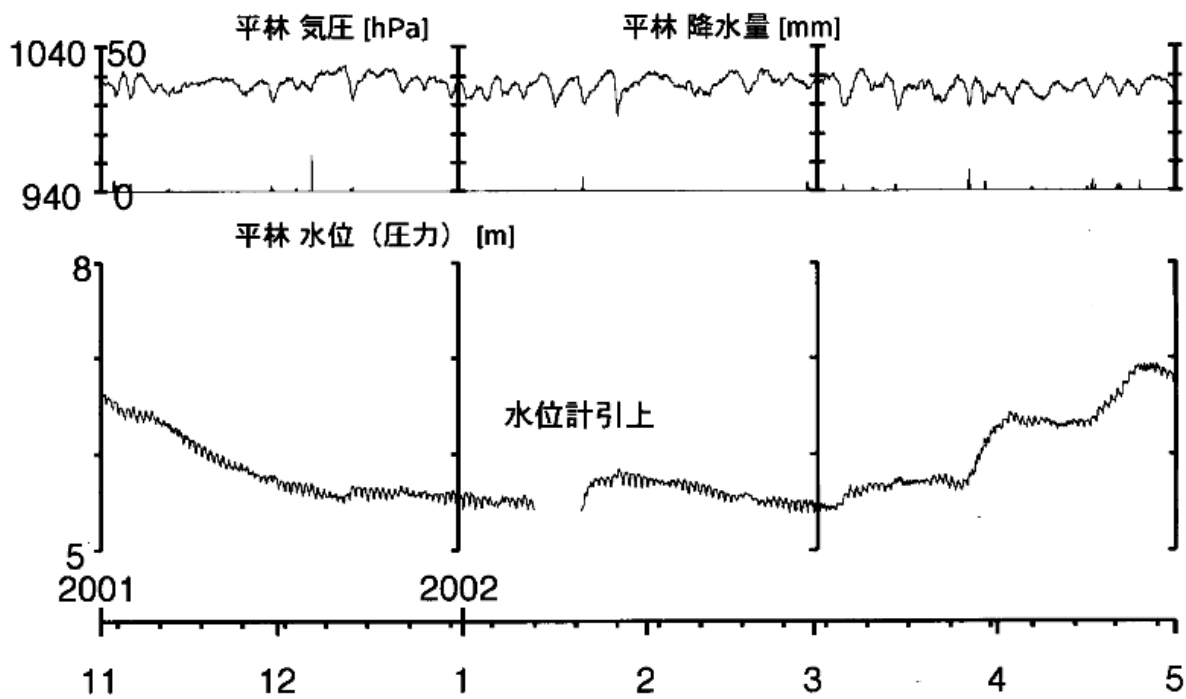
2001年12月4日からの水位・歪変動は,1999年5月以後からこれ以前までに約300日周期で3回繰り返されている変動とほぼ同様の变化パターンを示す。变化のパターンは図の影をつけた部分で示されるように,数日かけて水位が数10cm上昇,歪が約1strain縮む。2002年4月21日からの变化はそれらと極性が逆の変動であるが,これも過去3回の変動に同様に見られる。逆極性の変動は最初の変動の数十日～百数十日後に現れる。

(伊藤久男,桑原保人,今西和俊)



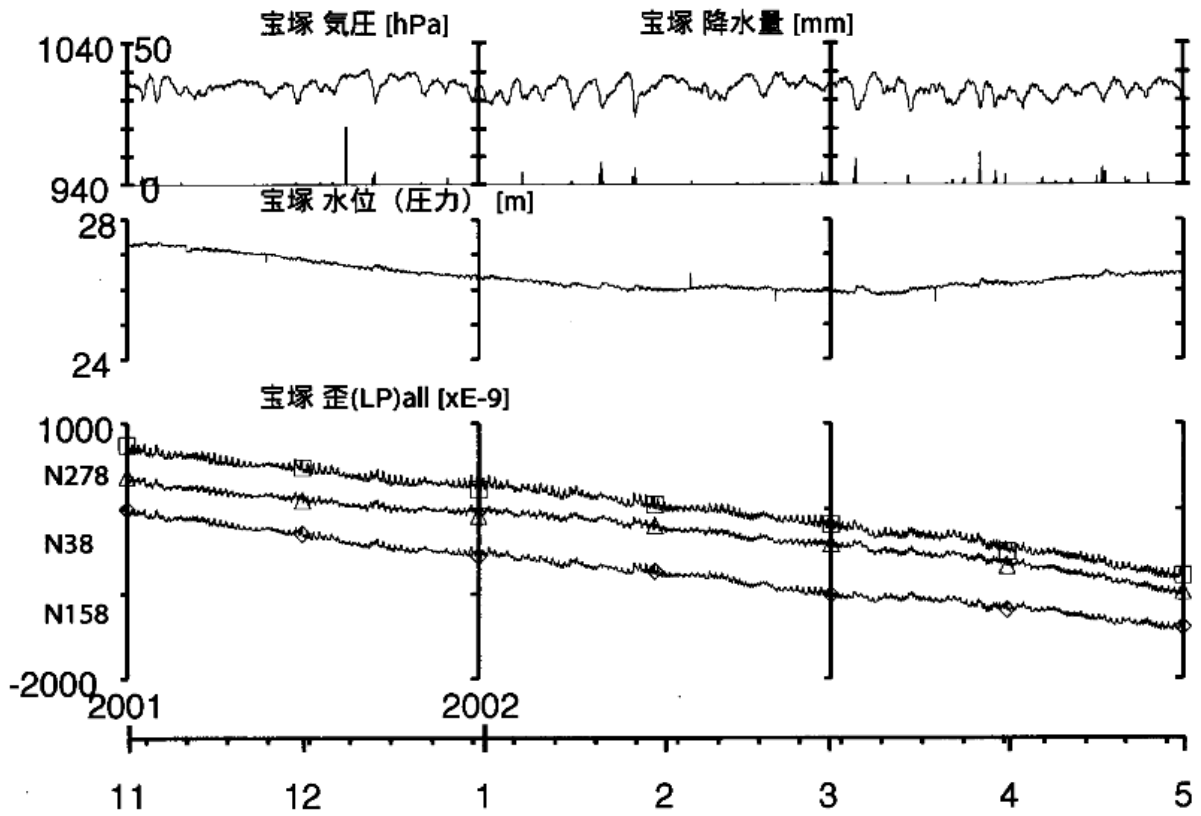
第1図 有馬～高槻～六甲断層帯近傍における観測点位置

Fig.1 Location of the observation boreholes.



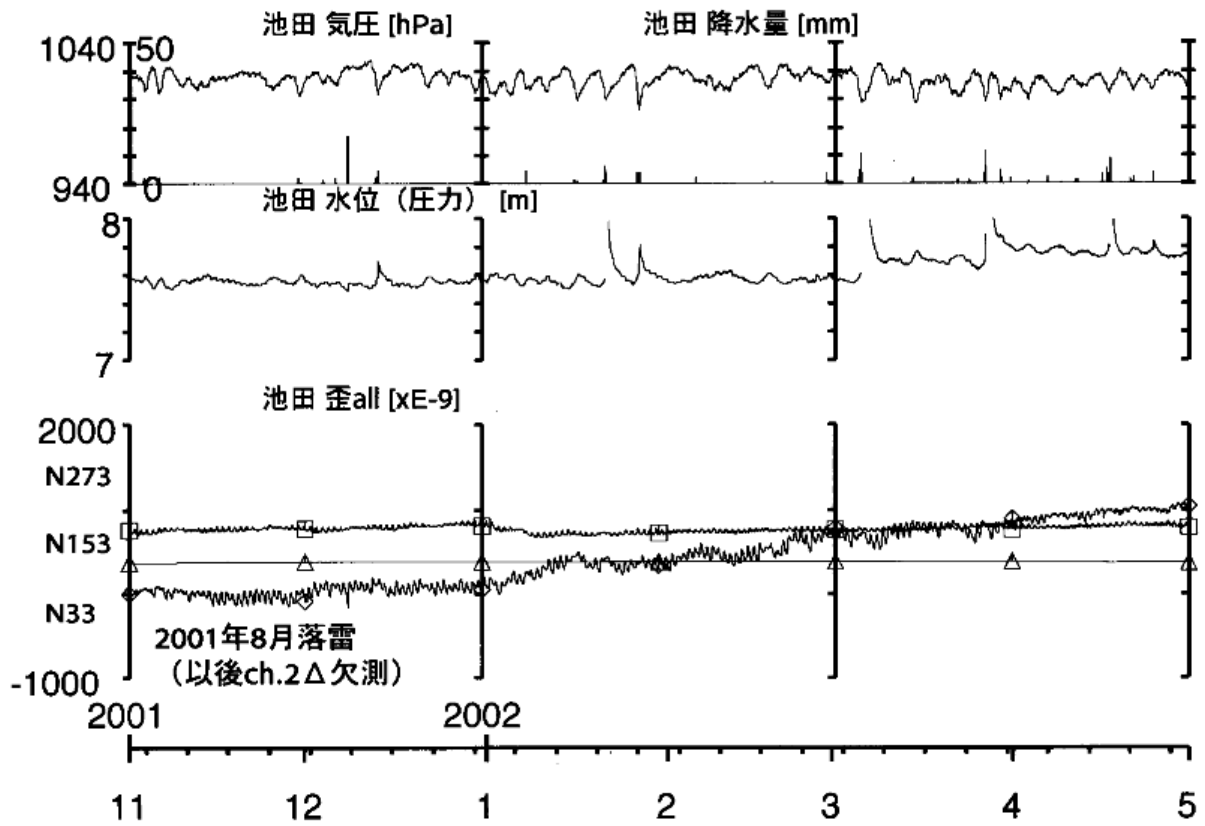
第2図 平林観測点の記録

Fig.2 Results at Hirabayashi.



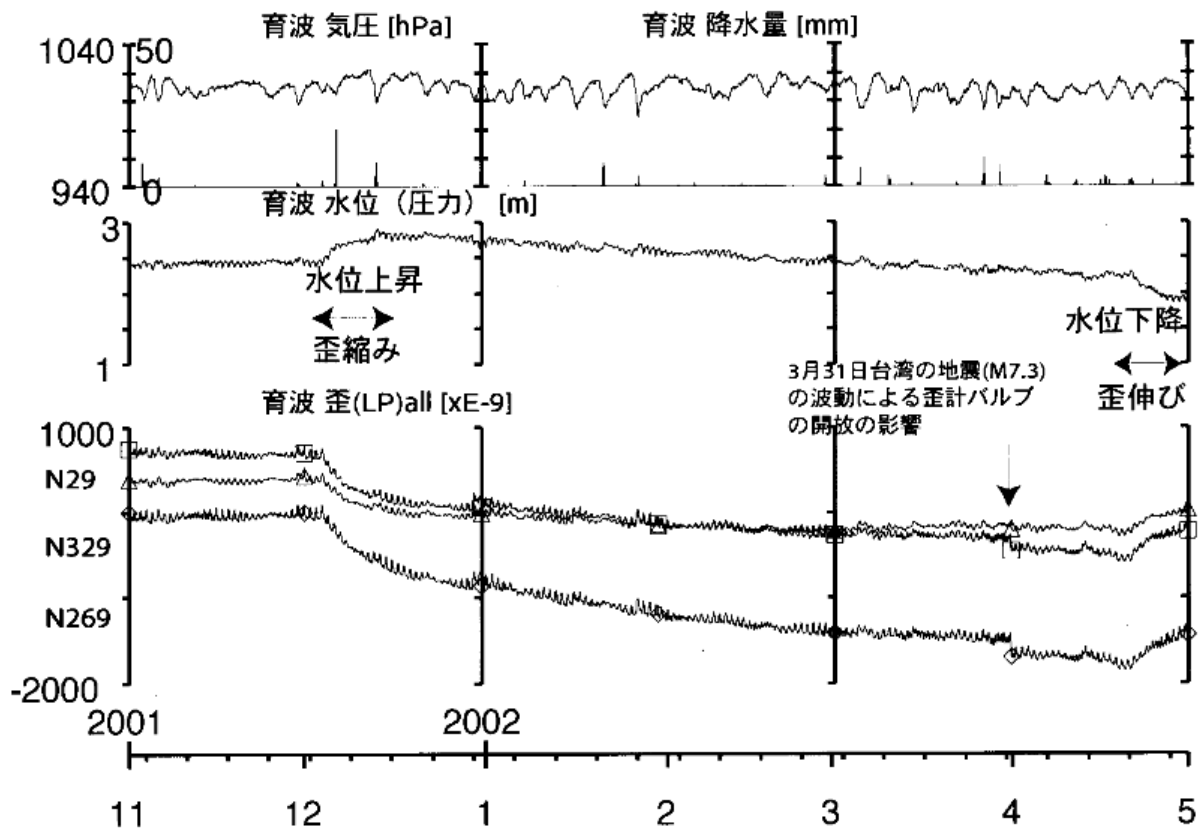
第3図 宝塚観測点の記録

Fig.3 Results at Takarazuka.



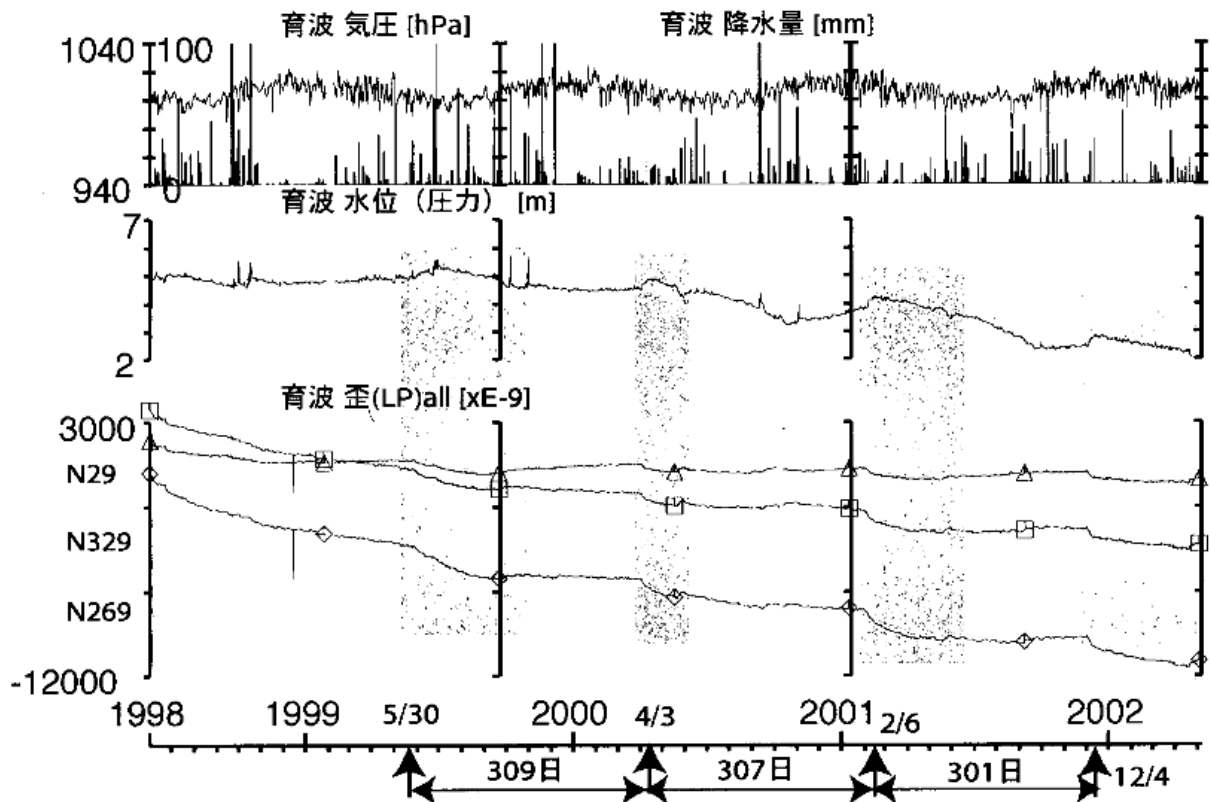
第4図 池田観測点の記録

Fig.4 Results at Ikeda.



第5図 育波観測点の記録(6ヶ月)

Fig.5 Results at Ikuha for 6 months.



第6図 育波観測点の記録(1998年6月1日~2002年5月8日)

約300日周期の原因不明の歪・水位変動がみられる

Fig.6 Results at Ikuha for 3 years 8 months.